

<バス企画>

早春の彦根城と近江八幡散策(案)

企画委員会

彦根城は関ヶ原合戦の後、徳川家康が豊臣秀頼をけん制するため井伊直政(NHK大河ドラマでお馴染み)に築かせた戦のための城で、彦根山(金亀山)を利用した平山城です。天守(国宝)が完成した1607年ごろから数度の戦災を逃れ当時のままの姿が残っており、標高50mと登りが少し負担ですが、400年の歴史を思いながら歩く楽しみがあります。

また近江八幡では近江商人の質素儉約・質実剛健な暮らしを肌で感じ、近江八幡をこよなく愛したヴォーリズゆかりの建築群を地元で散策します。

1. 日 時 : 2018年3月9日(金) 8:00~18:00 <雨天決行>

2. 集合場所 : 西梅田 大和ハウスビル前

3. 集合時間 : 8:00 時間厳守 (集合しだい出発)

4. 行 程 :

西梅田発8:00 → 彦根着10:00(彦根城・玄空園見学約2時間) → 昼食後彦根発
12:40 → 近江八幡着13:30 → 近江八幡散策(近江商人屋敷:ヴォーリズ建築等見学
約2時間) → ラコリーナ近江八幡(約30分) → 近江八幡発16:10 → 西梅田着18:00

昼食(弁当は)玄空園見学後、金亀児童公園(芝生)にて。雨の場合はバスの中。

5. 参加費用 : 3000円 (ガイド、施設入場料は科の負担)

* バスは大型2台(ゆつたりと行けます)。

* 出発日3日前よりキャンセル料が発生します(参加費の50%徴収)。

6. ガ イ ド : 彦根ボランティアガイド、近江八幡ボランティアガイド 各4名(各班1名)。

7. 持 ち 物 : 弁当、飲み物、雨具 他必要と思われる物。

8. 参加費用は事前に各班幹事が徴収

以上

参考資料

彦根城の歴史

彦根城築城は、将軍徳川家康公の命により佐和山城を一掃するため、慶長 9 年(1604)より着工されました。

当初は湖畔の磯山を予定していたといわれていますが、直継の代になって現在の彦根山に決定し、20 年の歳月をかけて築城されました。

天守は大津城から、天秤櫓は長浜城から移築。天守は 2 年足らずで完成しましたが、表御殿の造営、

城郭改造など、城郭の完成は 1622 年とされています。この間、井伊直孝は大坂冬の陣で兄直継に代わって出陣し、その功績によって家督を継ぎ、夏の陣では豊臣方の木村長門守重成と戦い大功をあげ、井伊直政(常に先鋒を務め、徳川四天王のひとり)に劣らぬ武将と賞賛されました。

直孝は、秀忠、家光、家綱の三代にわたって、将軍の執政となり、幕府政治確立にも貢献。これらの功により 3 回加増され、譜代大名としては例のない 30 万石となる。彦根 35 万石といわれるのは、このほかに幕府領 5 万石の預かりがあり、合わせて 35 万石となります。天守は 18 万石の頃の完成でした。



玄宮園 げんきゅうえん



玄宮園は、江戸時代には「槻之御庭」と呼ばれていました。隣接する楽々園は槻御殿と呼ばれ、延宝 5 年(1677 年)、4 代藩主井伊直興により造営が始まり、同 7 年に完成したと伝えられ、昭和 26 年には国の名勝に指定されています。現在は、庭園部分を玄宮園、御殿部分を楽々園と称しています。

玄宮園の名は、古代中国の宮廷の名によって命名されたと考えられます。園内を見渡す好所に建てられた数寄屋建築である「八景亭」の名から、一説に中国の瀟湘(しょうしょう)八景または近江八景を取り入れて作庭されたとも伝えられますが、江戸時代に描かれた「玄宮園図」に八景亭の名はなく「臨池閣(りんちかく)」と呼んでいたようです。そのほか玄宮園図には「鳳翔台(ほうしょうだい)」「魚躍沼(ぎょやくしょう)」「龍臥橋(りゅうがばし)」「鶴鳴渚(かくめいなぎさ)」「春風埒(しゅんぷうれつ)」「鑑月峯(かんげつほう)」「薩埵林(さつたりん)」「飛梁溪(ひりょうけい)」「涵虚亭(かんきょてい)」の十景が付箋によって示されており、当時「玄宮園十勝」と呼ばれていたことが確認されています。

近江商人とは

近江商人とは近江で商いを行う商人ではなく、近江を本宅・本店とし、他国へ行商した商人の総称で、個別には「高島商人、八幡商人、日野商人、湖東商人」などと呼ばれ、それぞれ特定の地域から発祥し、活躍した場所や取り扱う商品にも様々な違いがあるのも特徴です。

西川家住宅

西川家は屋号を大文字屋と称して蚊帳や畳表を賣、江戸、大坂、京都に店を構えました。現在資料館として入館できる施設は3代目によって宝永3年(1706年)に建てられたもので、昭和58年1月に国の重要文化財に指定され、昭和60年10月より33ヶ月の工期を経て、市立資料館の一部として開館されています。

西川家の家訓は「先義後利・好富施其徳」。

人として行ふべき正しい道を第一とし、利益追求を後回しにすることが商売繁盛となり、得られた富に見合った人間形成を行えと説いています。



ヴォーリズ建築

ヴォーリズがキリスト教伝道の熱き志をもって近江八幡に足を踏み入れたのは、今からおよそ100年前の1905年2月2日のことでした。滋賀県立商業学校(現八幡商業高等学校)の英語教



師を経て、建築設計事業を始め、設計家として日本に遺した建造物は1600を数え、今も多くが現存しています。

ヴォーリズ建築は、当時のアメリカ建築の流れをひいて種々の建築様式が応用されたものとか、様式のない建築と言われていますが、彼の建築には様々なところで日本の気候風土や住習慣に適合させる工夫がなされています。そこに共通しているのは、実用性に重きをおき、簡潔ではあるけれど

も豊かなデザインと親しみやすく包容力のある空間を有したものとなっています。ここに依頼者の求めに応える奉仕の精神に貫かれたヴォーリズ建築の特質があります。

日牟礼八幡宮

日牟礼八幡宮は、滋賀県近江八幡市にある神社。祭神は菅田別尊、息長足姫尊、比賣神の三柱。古くから近江商人の信仰を集め、二大火祭の「左義長まつり」と「八幡まつり」は国の選択無形民俗文化財である。境内地は八幡伝統的建造物群保存地区の構成要素。

